



## 研究部会報告

### ● D P ● (研究グループ)

日時：10月1日(火)18:00~20:00 場所：日科技連  
出席者：3名 テーマと講師：On Stochastic Bang  
Bang Control (小田中敏男)

要旨：バンバン制御という名は、1つまたはこれ以上の一定水準で作用する過程の型に対して与えられる。ここでは、ファジィ環境で各段階での状態変数が一定水準から脱出することを防ぐ確率制御過程のバンバン制御について論じた。ファジィ集合の応用である。

### ●社会経済分析●

日時：9月28日(土)14:00~17:00  
場所：東京都勤労福祉会館 出席者：15名  
テーマと講師：企業内業績評価の日本の特徴(日米比較実証分析)と今後の業績評価のあり方(駒沢大 長松秀志)

日本の社会システムを経済的側面からみると、各企業の独自の最適化施策が、社会全体としてバランスを保ちつつ発展してきた。社会システムを機能的に分析すると、個々の企業の業績評価のあり方が大きな影響をおよぼしてきたことも事実である。今後の企業環境をみると、在来と同じような評価制度でよいかということになると疑問が残る、問題が何であるかがわかったのはきわめて有意義であった。

### ●意思決定のための会計情報●

### ●第20回

日時：9月28日(土)13:30~16:00 場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：6名

テーマと講師：

- (1)ポケット・コンピュータのための設備投資評価プログラムの紹介 (東京理科大学：山口俊和)
- (2)投資回収計算について (ソニー・マグネ・プロダクツ㈱ 實山秀明)

### ●日本のシステム科学●

### ●第8回

日時：10月12日(土)14:00~17:00 場所：八丁堀 東京都勤労福祉会館 出席者：7名

テーマ：「東洋的システム科学としての五行説」

発表者：澤敷会員(近畿大学)

中国の古代からある五行説を解析し、それを現代のシステム科学に応用・活用するための基礎的なシステムについて検討された。また特に信頼性との関連においてかなりつっこんだ考えを述べられた。

### ●政策科学●

### ●第19回

日時：9月28日(土)14:00~17:00 場所：三菱総合研究所 出席者：8名

テーマ：「世界の金融等の協定を背景にしたわが国の貿易制度について(I)」 講師：斉藤 昂(防衛庁)

第1回目として、世界規模の組織(IMF・世界銀行・IDA・IFC)の設立目的とその活動について解説し、次に、地域ごとの規模の組織(OECD・EC・ASEAN・ASPAC・ECAFE等)について述べた。発展途上国は、今もなお旧宗主国と深いつながりをもっており、日本がそういった国々に対する場合は、注意が肝要であり、特

## 全世界のORに関する文献の Abstracts 専門誌

## IAORを活用しよう

IAOR (International Abstracts in Operations Research)は、IFORS (International Federations of Operational Research Societies)が発行している、世界のOR関係の論文および単行本の英文アブストラクト誌です。年6回発行され、約2400編のアブストラクトが収録されています。カバーされている雑誌

は、主要なものだけでも50種を超えています。

内容は、モデル、実施例、理論の3つの部門にわかれ、その中がさらに細かく分類されています。著者索引および非常に詳細な項目索引もあって文献を探すのにとても便利です。61年度は定期購読料改定の前定。お申込みは学会事務局へ。

恵関税等によって、わが国が不利益を被った例があるとの指摘があった。本テーマは、次回にひき続く。

## ●決定モデルとその応用●

### ●第1回

日時：4月27日(土) 15:00~18:00

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 5階大セミナー室 出席者：13名

テーマと講師：1)浜田年男(姫路短期大学)「Multi-armed bandit Problem に関する論文紹介」2)中井暉久(大阪大学基礎工学部)「Comparison of self-organization linear search rules」

### ●第2回

日時：6月25日(土) 15:00~18:00

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 5階大セミナー室 出席者：13名

テーマと講師：1)大西匡光(京都大学工学部)「適応型 Markov 決定過程に関する論文の紹介」2)玉置光司(追手門学院大学 経済学部)「Self-Organized ordering System に関する論文の紹介」

### ●第3回

日時：6月29日(土) 15:00~18:00

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 5階大セミナー室 出席者：14名

テーマと講師：1)寺岡義伸(姫路工業大学)「Meta-Game について」2)坂口実(大阪大学基礎工学部)「Correlated equilibrium について」

### ●第4回

日時：9月14日(土) 15:00~18:00

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 5階大セミナー室 出席者：12名

テーマと講師：1)野村 治(大阪府立生野高等学校)「Voting System を考察した論文の紹介」2)中井暉久(大阪大学基礎工学部)「Search efficiency の単調性を仮定しない最適探索問題」

### ●第5回

日時：10月19日(土) 15:00~18:00

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 5階大セミナー室 出席者：13名

テーマと講師：1)浜田年男(姫路短期大学)「Two armed bandit problem を扱った最近の論文から」2)沢木勝義(南山大学経営学部)「ゲーム論と制度の生成」

## ●待ち行列●

### ●第15回

1985年12月号

日時：9月14日(土) 14:00~17:00

場所：東京工業大学(情報科学会議室) 出席者：36名  
テーマと講師：Q15-1 Approximations and algorithms for queueing systems (Henk Tijms・Vrije Universiteit(蘭))—GI/G/C モデルに関する厳密計算のアルゴリズムと、発見的な近似式を紹介した。教授を中心にソフトウェア・パッケージが開発された。

●Q15-2 Numerical methods for queueing systems (Teunis J. Ott・Bell Communications Research)—GI/G/1 待ち行列(先着順処理)の待ち時間分布を求める反復解法を示した。到着間隔、サービス時間分布がほとんど相型の分布の場合には収束が保証される。

### ●第16回

日時：10月19日(土) 14:00~16:30

場所：東京工業大学(情報科学科会議室), 出席：32名  
テーマと講師：●Q16-1 Dynamics of the M/G/1 vacation model (Julian Keilson・ロチェスター大学)—M/G/1 モデルにおいて、繁忙時間の後休暇時間のあるモデルを、補助変数法により解析した。なお、繁忙時間内でサービスを続けるかどうかは、バブル率により決まる。

●Q16-2 Extremal properties of FIFO and LIFO service disciplines in single server queues (住田潮・ロチェスター大学)—単一サーバモデルに関して、保存則の成立するサービス規律のもとで、FIFO, LIFO 等に対して、サンプルパス法により系内時間の大小関係を示した。

## ●OR/MS とシステムマネジメント●

### ●第3回

日時：昭和60年6月15日(土) 13:30~16:30

場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室(長津田)  
テーマ①「SGSR (Society of General Systems Research) 大会に参加して」

報告者：太田敏澄(豊橋技術科学大学)

テーマ②「オフィスの日仏比較」

報告者：堀内正博(東京工業大学)

太田氏からは SGSR 大会での発表論文および SGSR 大会の2~3の論文の紹介があった。また堀内氏からは組織学会での報告をもとにオフィスの日仏比較を実態調査の分析結果が示された。これらの2つの論文をもとに最近のシステム科学、組織科学研究についての議論がなされた。

### ●第4回

日時：昭和60年7月13日(土) 13:30~16:30  
 場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室(長津田)  
 出席者：26名 テーマ：「OR実施研究の基本方向」  
 講師：松田武彦(東京工業大学)

本講演で松田先生はOR実施研究に対して7つの基本方向を提示した。そこではOR実施を、①循環過程として、②心的風土の問題として、③組織風土の問題として、④組織動態の問題として、⑤OR環境の問題として、⑥OR資源の問題として、⑦ORプロジェクトの問題として研究する方法についてより具体的に実例を示しながら、研究の体系が示された。これらをもとに今後の部会の方角づけが議論された。

●第5回

日時：昭和60年9月7日(土) 13:30~16:30  
 場所：東京工業大学システム科学専攻ゼミ室(長津田)  
 出席者：15名 テーマ：文献紹介「An Assessment of Systems Methodology and Design」by Gerald Nadler, Proceeding of 1985 SGSR Meeting

講師：太田敏澄(豊橋技術科学大学)

太田先生より1985年SGSR(Society for General Systems Research)の会議で報告されたナドラーの文献の紹介がなされた。ナドラーはこの文献によって近年のシステム方法論、設計論についての評価を行ない、ナドラーのシステム方法論および設計(Systems methodology and Design(SMD))の考え方を提示した。この報告にもとづきシステム設計論の討議がなされた。

会合記録

( ) は出席者人数

支部長会議	10月1日(火)(14)
モニター会議	10月3日(木)(12)
広告委員会	10月8日(火)(3)
編集委員会(OR)	10月9日(水)(8)
普及小委員会	10月21日(月)(7)
研究小委員会	10月25日(金)(5)

入退会

(60.7.27~9.20)

●移動(学生会員→正会員)

枝廣 正人	東京大学	→日本電気㈱
奥原 英彦	東京工業大学	→㈱フジミック
栗原 浩一	北海道大学	→日本鉱業㈱
桜井 昭	埼玉大学	→㈱日本科学技術研修所
武田 晋	東京大学	→東京電力㈱
松下 芳生	筑波大学	→太陽工業㈱
松丸 正延	早稲田大学	→千葉工業大学
横山 一郎	東京工業大学	→三菱化成工業㈱
吉田 嘉昭	東海大学	→日本電気㈱
小久保岩生	東京大学	→㈱三菱総合研究所
田中 啓之	慶応義塾大学	→郵政省

編集後記▶日本人はイベント好き、科学万博やオリンピックなどがはじまると熱くなります。しかし、イベントの質のほうとなれば、一朝一夕で良くなるものでもありません。イベントそのものには衆目が集まりますが、それ以外は無関心です。平日の博物館は閑子鳥が鳴いているのに、万博会場は超満員、ふだんはわが子には運動を控えさせても塾通いさせているのに、オリンピックとなると日本選手層の薄さに憤慨するのが日本人の典型のよ

うです。イベントは当日より、それ以前が大切なのではないのでしょうか。「万博」がやってきてからでは遅く、急に科学の最先端をわかりやすい遊びの形で表わそうとしても、奇をてらったものになり、科学的考え方そのものを遊びにするようなイベントが育ちにくい気がします▶ORを楽しむ心、ORと遊ぶ心が育つ誌面作りに励みたいと考えています。ORを楽しくする記事を歓迎します。気軽にご寄稿くださることを期待いたします。(I)

オペレーションズ・リサーチ

昭和60年12月号 第30巻(新シリーズ第10巻) 12号 通巻300号  
 代表者 近藤次郎  
 発行所 社団法人日本オペレーションズ・リサーチ学会  
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
 (電話 03-815-3351~2) 〒113  
 編集人 柳井 浩  
 発売所 株式会社 日科技連出版社  
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含)年間予約購読料 9800円(郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ